

考及書考
十二

79

535

13.



門ヲ 9
號 585
卷 13



香道秘傳書

書乃を授く事

一たさ級の書、奥のまけ、其人教の方
一道日よ理と事、書の教持くおれ
縁とくく合々くたうけ様く一ま
く凡是種の付合ならふお明似く書云
升くたうれらくま的と事さこ又こ
くねと事く時の秘がありたらまう

一炷二炷ハ
種ノ字ハ
惣言百虫ニ
炷種ノ二字
日名又ニ記
アル中古ヨリ
ズ別有ハ
ハ虫志クハ
心持三テ可
見

るりよるり一炷二炷宛為心持るり
たり

一上ノ書と二炷三炷も毎りてハ冊を
沉みたる紙たうれまはる紙とあり
こめ勢ひひくよたうれとやうよ可
受怪人ひの持書一也

一書とたうり今まもりてたうり可
然人但産紙よりり誰とあたうれ

くろくろく人書紙よ火人衣中
一紙たうれとと礼と一焼子以火時
ハ産上字て一と紙り毎く扱書これ
あへ来又と一紙一紙紙りとも一ニ
夜宛何色一紙也ト名去十人より上六
一紙とて一紙也

一書とたうり時をあらたに力も似お紙一
る受怪人子細人より年の人の書これ
上

とが新行を結もさうしやぶうは
マラ用ニムウウリと名表やうていちは
ヨウ一又やメ志うと坪とてうんの定
小やうのもさうかめざとてぶ志うしん
よんこしんヨウ一産中の老人の上
らう書とうんじ名あざも他人よ
尋坪をよん志あをふ久あうほう
とやうのすあの結うり也

一書やメよ書都とあし川さうけてや
いさうし一ぎんも時よさうさくささうし
又書もぎんの上とさうし一坪へおら
いらんしやえいさう一丸度さうし一抄
んとさう人さうらわし一抄持しげ名物
もしらうし十度さうたりさうし一あひも也
一書都ねさうさうさうし一書いんやなよふ
さうほうしよまのさうしけさうし一さうし
上れ

茶
即カ

うぶらうらうらあまおしや

一我たう書と人のえんどのとそひげ
 のま茶ううそめも茶用よんそあひ書
 けくがつ物としてん名とばたうりよ一
 二茶とられん后あうりて一甲しや
 一書海うりし時わが次の人よ一礼一を意
 よ茶中へ礼義を用し
 一書のまといられらま日の茶焼え

万あふとあなうたう物たごとお扱あう
 ちうくと又うけかうあども茶用し

一茶の湯まの時も茶さうく書と一茶
 となト日のあひあう茶うていさうあうり
 したとくくぶらうり茶用ト金おと
 も茶の湯まよさういあくのむ
 書と茶と好トな道からいさう書と
 茶ん焼えくくし

上

一書と申す時うらむれ所と申すよりさうり
あふ細と書ととりてはなつたん
とやううらんの人所とをさるれう書
ひあよあらしくしんうう
一書と申す時書人申すくともはな
書や種人為はよううて府中へ入
て一書や人かりそあもさんよて中
中

一書の毎うらむれ府中とて府あうは
ひうらむれ府と熱利府へ用持
あ細と細とも時うらむれうらむれ
さうらむれと分列してはをむら也
一書と申すはあうらむれと申すは
うらむれとあやまうらむれの府中とあ
敷の時いあうらむれとあうらむれ
は是種の公持よあうらむれとあうらむれ

三才
ツケツル

○可礼ニ
可有失ス

○又六人の時 此文字は後へノ出加ナルハ
一 ぎんよ書こがれけんとて火よらばく
人ありあやまらん何所もこがれ付
うて小刀こそこまけけりて玉こ
一 ぎんの玉をよまひ書けしとゆひと
きんの玉を然とまひ書けしとゆひ
より下よりてうらりよ玉を時色同
おこト又ゆひとて集りよせよふと書け

女キテイニ
香元ノリ
紙近

ふ若く
一 ぎんの寸法ハから可方うしてすこ
一分宛りんよとる
一 書きぬり極細く書しとびぎんの上よ
書くたさいてり由なぬのうらま
よとまひし玉おははれん
一 書きぬり人書きぬりおとまかたき物の
きりぬり時いぎんとくしてたうん

上

春日野川
近侍家ノ
メキモノナリ
エニニヤウ
入ト云

物乞名書家ノ付の書人よそへかううめ
もしたくもあふ又書の中がまた
くもるもあふもよたくも
自然くる也

一書日野の書人付の書人よそへかううめ
又外人の書人付の書人よそへかううめ
さてとびく物乞もあふの書人
くもるもあふもよたくも

仙伝也

一書とくよあふ付一たふもあふ
一書とくよあふ付一たふもあふ
一書とくよあふ付一たふもあふ
一書とくよあふ付一たふもあふ
一書とくよあふ付一たふもあふ
一書とくよあふ付一たふもあふ
一書とくよあふ付一たふもあふ
一書とくよあふ付一たふもあふ
一書とくよあふ付一たふもあふ
一書とくよあふ付一たふもあふ

上

炉 泰くしめふ掛を幸もいやせのう
出らうて方八まき垣とたくりりく公つ
くひをまき口結く

一書 炉よ火おてかろるを火はくこ
とり書 炉あつくし持うくまのま
き付いさむれの成抱よあくと入く書 炉
と三ふ程をとしやしておら抱く
入の氣をくしや一近のあはして書 集

ひあわの鴨の書 炉よそて二書 火トな
きあうそいともあふうくよそ鴨の書
炉らくまきうそておら入して結く
りんと掛く也

一魚よとらる書 炉のたのまうそと
持くたのまうそとらうそとらうそ
変つおる又た中うそて居あがらけ
五活の魚あうそとらうそとらうそ
上

此文は後
危す故
甲古ヨリ下
に重し

是くしてたのまゝに書部の中程の
よ指されたりつる様よりそくかきつけ
る人の又たのまゝに保と人のまじ下
よあるやうにしてたのまゝにしてつら
おとぬ様よりなうく知たのまゝ
さしてたえ
下書部のよ書部おとつるのよと
くまゝにしてつらげは様よおとつる

清人のたのまじよとく様よ保と
一回おとれ并ぬたれとく書部つら
付のたのまじよとく保とくまゝ
まゝに保と
一書一平目本よ書部と玉合よまゝ
ハ書部つらとくまゝのるよ保し
書合よ玉合人付下よ保よまゝ玉
しあり

別
五
二

と一紙但所とくあつておつたの事
よとて又多々おしあつた
あつた

一紙が書様何書ちりきぬとして
やんば式よりりきぬとして
よりのふておとがりきぬとして
よんよと後又さうしや火と能て
よ海も若も別きとあつた

と一紙

一我たき書火はさき書として
在し然ハきんとしてハおと
ハ社よ人のく時やうの書と一
ともおれんといふも但と
ハ一社理を候と一
一四よるれよ言ふらして
そいの人よあつた

一書すす人日書部^一本よ玉^二時^三所^四として
サ^一用^二て^三あ^四け^五て^六あ^七り^八して^九玉
一^一書^二中^三ま^四し^五時^六百^七一^八書^九部^{一〇}り^{一一}
玉^一合^二り^三の^四由^五た^六あ^七り^八の^九く^{一〇}く^{一一}所
と^一して^二玉^三合^四の^五極^六く^七
一^一書^二上^三の^四紙^五松^六を^七う^八の^九書^{一〇}部^{一一}に^{一二}ト^{一三}その^{一四}あ^{一五}り
う^一つ^二り^三う^四を^五く^六物^七ニ^八と^九
一^一卓^二并^三か^四ん^五ん^六よ^七書^八部^九書^{一〇}合^{一一}玉^{一二}合^{一三}玉^{一四}

一^一時^二ハ^三書^四部^五書^六合^七中^八く^九と^{一〇}た^{一一}せ^{一二}り^{一三}ト^{一四}中^{一五}紙
一^一三^二五^三卓^四し^五う^六ん^七ん^八し^九その^{一〇}中^{一一}に^{一二}座^{一三}よ
ま^一く^二さ^三く^四
一^一中^二紙^三の^四玉^五合^六書^七合^八長^九を^{一〇}く^{一一}く^{一二}の^{一三}玉^{一四}
何^一も^二玉^三あ^四り^五く^六た^七り^八ト^九中^{一〇}と^{一一}さ^{一二}り^{一三}ト^{一四}
し^一あり^二
一^一風^二あ^三り^四ト^五書^六中^七人^八時^九ハ^{一〇}風^{一一}の^{一二}面^{一三}ハ^{一四}り^{一五}力^{一六}と
あ^一り^二ト^三中^四人^五書^六ハ^七り^八

移るる書とて海に沈かたるるあり
るあり

一太子の西へて一彦とたてしけおけ
す

一蘭本書 西へて十彦とてしけおけ
ありけ字は秘あり

一西へて一彦とたてしけおけ乃
外は十彦の書も不存中しけおけ

咏

西へて一彦とたてしけおけ乃
又之様の西へて一彦とたてしけおけ乃
金人とのりい物に不存あり

一書抄の末より一彦とたてしけおけ乃
一穴とけしけおけ乃一彦とたてしけおけ乃
一玉書とてしけおけ乃一彦とたてしけおけ乃
一とて一穴の中へ一彦とたてしけおけ乃
とてしけおけ乃一彦とたてしけおけ乃

はくく一五さあやうよ一五さあやうよ
一言が三行うくあまあ一う床へ出書
炉あふくし事さくく一五さあやう
又あまあ一う一やあ仁中入理
とまて床へ上くもむらうさああ
よ一うく一五さあやうよ一五さあやう
はく中一可はあはあ
一五さあやうの沈ううう一五さあやう

一五さあやうの沈うう一五さあやう
三行入く一五さあやう一五さあやう
一五さあやう一五さあやう一五さあやう
一五さあやう一五さあやう一五さあやう
一五さあやう一五さあやう一五さあやう
一五さあやう一五さあやう一五さあやう
一五さあやう一五さあやう一五さあやう
一五さあやう一五さあやう一五さあやう

古工ニ始ルハ
口傳アルコ

イギリスニテ
ヤソノ法ヲ主
ル者ヲ天主ト
云信也ヤソノ
法ヲ信スルカ
故ニ高ヤクラ
ヲ造リ上ニ
カノ天主ヲ
マツル故ニ天
主ト号ス

つこころいよふせくあしあはるすあは
然はるやうのまじおとふましく氣を
一鴨の言柳よまんとくはまを成て
ひののうくあして垂しは傳
一鴨の言柳あけくはおのまを割
さうのうふかから付しはうから我
たのくくあくや大湯一松はあん
よつこころいよふせくあしあはるすあは

又さうまてわりおのよから付んは
ひののくくあくや大湯一松はあん
よつこころいよふせくあしあはるすあは
一鴨の言柳あけくはおのまを割
さうのうふかから付しはうから我
たのくくあくや大湯一松はあん
よつこころいよふせくあしあはるすあは

日本書紀の
一書柳六つ
かうとくくあり

上

是ヨリ古字
通ル書信ノ
去者巴ノヨク
出ナリ

名書合紙一巻より十巻と二巻宛亦
燈二通人教も十人たりし然ハ一人
より二巻宛者紙一紙半三書よち子
束ち書とい紙お除きお十巻し内又
五半燈し内と一紙もくじまじし二巻
五より一書内よりめくくハたと定
後よたつくといと定たの書よりと累
時ハたのれと一打たの書たりとい

より海よりと一尺ハたのれと一打れ
の御様もくおふ書長さ一寸九分又あつ
さ一分半ニ紙の板とけつり一書宛ニ我
この名書と虫うらふハたと一紙又右と
一紙ニ紙書信包紙といふをわう一紙と
はうニ切てきまうといふきく名紙とら
りけて書の名くとよ書き下よ書ら
る書と云はるよきくわけくハ紙と

方々の様^{ハナカケル}一^ニ書し月紙の中より書とつ
 つ^ニ人^ヲお^シあ^ハひ^レ人の十^ニ種^ノ書^ヲしてりてあ
 そ^ノ小^ノ時^ノのつ^ニこ^ノい^ニこ^ノい^ニ何^レと^モ傳^ヘる^ニし^テ
 比^トお^シ宅^ノ自^ノ身^ノの^ニ時^ノの^ニ終^ニお^シ互^ニ共^ニ念^ノ作^ル
 趣^ノ利^ノ若^シ書^合と^モ云^フり^テ方^々々^ノ作^ル
 三^ニ条^ノ後^ノ亦^モ家^ニた^ラま^ニ物^合と^モ云^フり^テ自^ノ身^ノの
 人^ノと^モ縁^トと^モ云^フく^ニ自^ノ身^ノの^ニ仕^合也^ト思^フる^ニこ
 ころ^ニ珠^ヲ發^スむ^ニ思^フる^トは^コト^ト云^フと^モ珠

京地母ハヤ
 マキ巻ノフミ
 札ノ方抄
 京屋金目
 利ノノ未考
 兼本
 阿ノノ表
 本ノリ

自^ノ身^ノと^モ清^クわ^カる^ニ見^ル所^ニお^シは^レし^テ清^ク務^ム
 自^ノ身^ノの^ニ判^者者^ノ差^違度^ノぶ^ツハ^ニ三^ニ条^ノ後^ノ亦^モ
 上^ノノ^ニ書^合の^ニ人^ノハ^ニ不^レ一^ニと^モ云^フ共^ニ念^ノ也^ト
 有^ニ一^ニ札^ヲ写^シ入^ルる^ニり^テ列^スる^ニ云^フ所^ニ京^ノ宗
 温^ク仕^テり^テ亦^モ後^ノ者^ノノ^ニ代^リと^モ云^フり^テ自^ノ身^ノの^ニ仕^合
 今^ノ身^ノの^ニ因^リて^モ社^ノ信^ノ中^ノ亦^モ書^合の^ニ代^リ
 宗^ノ本^ノ又^モ千^ノ余^ノ々^ノ条^ノノ^ニ義^ノハ^ニ他^ノと^モ云^フ

江ノノケル

上

け書か見しハ一為書素人

永禄元年一月一日省巴

此書改正
五ノ下

以下左の二文
香炉因小色大色
其の寸方あり

香炉の寸方あり
其の寸方あり
其の寸方あり
其の寸方あり

是之ヨリ三十
六ノ下
隆勝之
也

武内隆勝
の書

香炉取
ノリ前記
同

香炉の寸方あり

香炉の寸方あり
香炉の寸方あり
香炉の寸方あり
香炉の寸方あり

香炉の寸方あり
香炉の寸方あり
香炉の寸方あり
香炉の寸方あり

一 下巻のまへ後附ハたのまゝに書解の
 口紙おんくろ指とろわけて下巻の
 巻のまへの上よまゝに
 一 巻末のまへ後附ハたのまゝに下二巻
 一 しよふふのまへ
 一 巻末のまへに書解ハ付ハ書解のま
 一 おのまゝのまへに書解ハ付ハ書解のま
 一 巻末のまへに書解ハ付ハ書解のま

一 巻末のまへに書解ハ付ハ書解のま
 一 巻末のまへに書解ハ付ハ書解のま
 一 巻末のまへに書解ハ付ハ書解のま
 一 巻末のまへに書解ハ付ハ書解のま
 一 巻末のまへに書解ハ付ハ書解のま
 一 巻末のまへに書解ハ付ハ書解のま
 一 巻末のまへに書解ハ付ハ書解のま
 一 巻末のまへに書解ハ付ハ書解のま
 一 巻末のまへに書解ハ付ハ書解のま
 一 巻末のまへに書解ハ付ハ書解のま

も茶湯の時に座より書が垂へくらくにお
 りし位々の鏡三方更人の対ひがけの人形
 後も垂へししある茶室の法あり
 よの書が垂へし又書が垂おのり
 志船入るハヤノ書が座の枕より
 必二垂下りしし臨終ある世ハ書が名
 物よりりり死大畧床の中より垂くへま
 し又垂お枕よりれと書がのま中ふ

せんじて
 其比ノ方ニ
 ナルハ
 吟味ノ下書
 其比ノ方ニ
 ナルハ

ありて下り又ハ枕よりれとまのこりありて
 てつとさうし又鳥物たりハ法村の清目と
 りありて守り付りたりと枕よりハ小茶室
 の茶室あり方ハ茶室入りよ垂又合し何も
 けおの枕よりあり
 一鏡よ垂書がより火ととくは鏡よ垂
 月ハけし之なよアハ只一床とくさわけ
 ちるハ能く人しと垂く又くしりり

はくろりた書部は付るりも之界域之
三人の寸法九分四角と一分三厘とつ
にもありき浪より
一書部よ三人の寸法九分四角と一分三厘と
又在るも之も廣く三人の寸法九分四角と一分三厘と中央
阜の上よ五と
但書部の書部ハ野の書部 釋書部
とくろり書部ハくろり

一書部よ三人の寸法九分四角と一分三厘と
とくろり書部ハくろり
わくろりしすくろり
一書部の長さ寸法九分四角と一分三厘と
一書部よ三人の寸法九分四角と一分三厘と
又ハくろりしすくろり
とくろりしすくろり
とくろりしすくろり
とくろりしすくろり

沉香トハ今下倍
ニ云ハニテハ下
名テ香本ノ名
ナリ

一 氏はハ男ヲ深ク

一 阜^ニハ^ニヨウ^ニゴ^ニ書^ル都^ノノ^ニ書^ルク

一 書^ル都^ノ代^ノ書^ル入^ルク^ニ書^ル玉^ノ垂^ルリ^ノあり^ク、^其れ

一 書^ル都^ノ代^ノ書^ル入^ルク^ニ書^ル玉^ノ垂^ルリ^ノあり^ク、^其れ

一 時^ニ代^ノ書^ル入^ルク^ニ書^ル玉^ノ垂^ルリ^ノあり^ク、^其れ

一 書^ル都^ノ代^ノ書^ル入^ルク^ニ書^ル玉^ノ垂^ルリ^ノあり^ク、^其れ

一 書^ル都^ノ代^ノ書^ル入^ルク^ニ書^ル玉^ノ垂^ルリ^ノあり^ク、^其れ

一 書^ル都^ノ代^ノ書^ル入^ルク^ニ書^ル玉^ノ垂^ルリ^ノあり^ク、^其れ

三才書曰

一 書^ル都^ノ代^ノ書^ル入^ルク^ニ書^ル玉^ノ垂^ルリ^ノあり^ク、^其れ

一 書^ル都^ノ代^ノ書^ル入^ルク^ニ書^ル玉^ノ垂^ルリ^ノあり^ク、^其れ

一 書^ル都^ノ代^ノ書^ル入^ルク^ニ書^ル玉^ノ垂^ルリ^ノあり^ク、^其れ

一 書^ル都^ノ代^ノ書^ル入^ルク^ニ書^ル玉^ノ垂^ルリ^ノあり^ク、^其れ

一 書^ル都^ノ代^ノ書^ル入^ルク^ニ書^ル玉^ノ垂^ルリ^ノあり^ク、^其れ

一 書^ル都^ノ代^ノ書^ル入^ルク^ニ書^ル玉^ノ垂^ルリ^ノあり^ク、^其れ

意橋

追加

園城寺

八橋

一 中程の内の書又まがの名著に季
 一 志雜紙をもちくるとたふし
 一 名書包紙のよりち包小包を又ハ書合
 一 ちのくハたけも少包あふし
 一 名書上程ハ包紙ヤリ列はあり
 一 書合よ書包して入るハ三種又程

一 入も入包紙入の下入ヤリも
 一 入

一 書合よ書合の況書入まハ入之沈の寸
 一 長ささかたも二つありさかた
 一 鴨鴉と一柳の書部してはとれ書合
 一 ありありハねしてけりさる書部ハ紙
 一 たりあり一足ともよとくちし又ね
 一 入り下の書部してはありさる書部ハ鴨

のしよとちんぐのたのまへんあしん又鴨
の書抄記考書抄獅の書抄の文
字と入くりてり

一書抄記考のたのまへんあしん又鴨
の書抄記考書抄獅の書抄の文
字と入くりてり
一書抄記考のたのまへんあしん又鴨
の書抄記考書抄獅の書抄の文
字と入くりてり
一書抄記考のたのまへんあしん又鴨
の書抄記考書抄獅の書抄の文
字と入くりてり

一書抄記考のたのまへんあしん又鴨
の書抄記考書抄獅の書抄の文
字と入くりてり
一書抄記考のたのまへんあしん又鴨
の書抄記考書抄獅の書抄の文
字と入くりてり
一書抄記考のたのまへんあしん又鴨
の書抄記考書抄獅の書抄の文
字と入くりてり

一書抄記考のたのまへんあしん又鴨
の書抄記考書抄獅の書抄の文
字と入くりてり
一書抄記考のたのまへんあしん又鴨
の書抄記考書抄獅の書抄の文
字と入くりてり
一書抄記考のたのまへんあしん又鴨
の書抄記考書抄獅の書抄の文
字と入くりてり

炉の底とらつるあつていふ事よとて
をきりし詠言あり

一書解の底と押する中後せういふり
かきくうたあけくともてし

一書解一うもあくハちけううとては
茶の玉物は石玉壺のたあひ
らひとも玉人しはわあうあ

一各書ハ社徳付ハを礎柱とてうあ

一書解のころさううんてんてい系
いふく臨えうしう結集う一程能人
長さ七寸ううりうう成用しと也

久二カ加四羅二
入古又深子行有

伽羅一分

東大寺

道遠

法皇孫

三吉野

取巻

園城寺

似

般房

代里

揚貴妃

玄宗

青梅

月

立田

斜月

法苑

玄壽

八重垣

丹石殿

紅

荷取

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

新加羅初十名
 三テハオシ白己別
 十ルモノ
 富士烟以下ノ三
 種ハ五十種ノ内
 ノ名木ニ是ニテ
 新加ララセ
 フル也

高雲	上馬	八重菊
芙蓉	山陰	ちり見 <small>短編イ子リ</small>
十九	美村	素直草
第	子系	芳葉
新加羅ノ分		
富士烟	花形見	初瀬
高野系	富士	難波
武蔵野		

沈外ハ三木
 内ニテ極秘傳
 之香道今亦
 二虫
 清水記板
 云々

古木	八橋	月良
寸代	高蒲	瑞年
漆	二葉	松根
玄磨	沈介	
大形班分		
中川	白梅	茶子
寒梅	早梅	霞光

一 東土も 如経中よりそくおつ又中へ
くもうよ出たてて又中へしうやう
又中へし出たしひな治軍
くひやうふ書し

一 道遠 如経中へハ早くおし書ハ
ちりいごそく出たしひな治軍
一 三書 如経中へハ早くおし書ハ
おし書しごそく出たしひな

ハ前同也

一 法を 如経中へハ早くおし書ハ
経揚よ出たしハ末へし同

一 如経中へハ早くおし書ハ
そくしごそく出たしハ揚中へ
とあ書の中へ一説ハ傳へ末へし同
一 古本 如経中へハ早くおし書ハ
於法へ書し 経中へしハ

一富士相や新きやらんを形かん
と同あ

一高田浦本所所法中不女し所法の中
そあやなくしらるは物のあやめ柱法あ
焼し跡本と上付く又本能あやめ
とりて二節あやなく同とらりしは音ハ
あのおやめしりハ音建ニあやなく
一般あやめ代黒と同あよとあやめ

一ハ女あやなくはあやなくあやめハ
似と同あ

一鶴崎班や本流の者あやめいあやめ
あやめあやめあやめあやめ何の本あやめ
てあやめあやめあやめあやめあやめ
あやめあやめあやめ

一揚き妃上とあやめあやめあやめ
あやめあやめあやめあやめあやめ

二地一文可
除玄宗ハ
陽子妃ノ附
録
小糸山彦曰
五十種ノ外
ナリ

一 後ありて中在りて出果ハ似と同あり
一 玄宗上と御経中より法くくはらばる
くとも志くち中在りて書一箇ありて
と急ハ揚き妃と同あり
一 吉梅本亦御経本より下りてとる
此よりとる吉梅のさく出たり
一 飛梅ハさく本流よりとる
一 種傳本流中よりとるがごとく記す

一 此はよきなり
一 深橋より御経改定本流の御経は
中より乃多利 等出たり
一 月より御経中よりとるは古く中より
中より小糸彦と小糸御経月御経
禁中よりとるなり
一 龍田より御経古今より稀なる中
中よりとるは御経と同あり

尸たしつりし

一 和歌の歌ふまはるる
あの子はあはれ

一 斜月の中を立田よ
白梅の上をまふらん

一 鳥のやうな
りよるる

健

三

晴の明日こ
Pカフキト云
ヨキコ

一 法を修得す
本流のうら
一 花を正流の中
加えれ書わ
一 花雪あ
一 花雪あ
一 花雪あ

四七

健

一 賀あし同
 一 茶子中上之形班一階之古く上之清
 一 卓不存
 一 樽中上之形加文也之茶子中上之
 一 静之由存之末久しく由存
 一 花中上之
 一 丹中本処他種中健之由存之由上付
 一 花形見中形他種一階也やよあ

一 上葉末中上之
 一 清中上之形班
 一 形名同
 一 十又中上之由存
 一 清中上之由存
 一 夕中上之由存
 一 多能末中上之

一 三の形が美事ありて出たてに本流より
 決まりしりて中より万分おまじ出たて
 一 雲井一三の形本流より下
 一 紅上りて出たて
 一 二系よりさき後國
 一 守梅上りて出たて一は古く上りて出たて
 一 初濃新出たてに能く見よ似也
 一 守梅上りて出たて

一 雲井より下
 一 後見より出たてに本流中より出たて
 一 守梅上りて出たて
 一 七夕より出たてに本流中より出たて
 一 條目出たてに本流中より出たて
 一 別出たてに本流中より出たて
 一 守梅上りて出たて
 一 守梅上りて出たて

右此一冊為將... 此一向... 俚... 以... 天正元年十月吉日

天正元年十月吉日

建部 隆勝

